

2020年に菅首相(当時)は2050年までに脱炭素社会を進めることを宣言されました。またコロナ禍における住まい方が変わる中で、街も住宅も変わることが想定されています。

これからはサステイナビリティの高く、災害にも強い建築を目指すことがいままでに増して重要となってきます。

この環境住宅賞では社会的な視野に立った省エネ性と同時に、県の風土等の魅力を生かした先進的なバイオクライマティックデザイン\*を特徴としています。埼玉県の市街地から自然の中まで、住宅のおかれる周辺環境、各地の歴史や風土、そして地場産材などの魅力を生かした作品が数多くありました。

\*バイオクライマティックデザインとは、風土、文化、生物・気候をよく考えてつくるデザインのことです

# 第8回 埼玉県 環境住宅賞 作品集



埼玉県マスコット  
「コバトン&さいたまっち」



主催：埼玉県住まいづくり協議会 後援：彩の国埼玉県

## 総評

このコロナ禍の中、皆さんの住宅作品に対する情熱の熱さに驚きました。この時期に建築作品21、アイデア部門21、学生部門5、合計47作品の応募がありました。その中身もいつもより考え抜いた作品が多いこともうれしいことでした。審査委員会の中で建築部門の約8割の作品が何らかの特徴ある評価を受けていたことも、それぞれの作品の高さを示すものといえると思います。

また、今年はテーマをバイオクライマティックデザインとしました。地域の風土、気候をよく考え、それに適応する環境意識はどこにするべきかを考えた作品をと考えたものですが、省エネ基準のUa、ηac値と一次エネルギーの記載とともに6項目の環境配慮について、応募者が自分で記述することもそのような配慮をしてほしいとの気持ちからお願いしたものです。

省エネ計算の値と一次エネルギーに関しては約9割の人が計算をしているようです。これも省エネ法の計算でエネルギーが分かるようになりさらに6項目の評価基準を考えてみると、さらに自分の設計に対して新しい工夫も思いつくことになり、さらに設計の楽しさは増えるとおもいます。

それに応えてくれたのが今回の応募によく表れていて、審査会も賛同する意見が多かったことも良かったと思います。

昨年の暮れから日本の省エネ住宅の方向性はさらに高くを目指して改正が行われようとしています。しかし、現在の省エネ法は外皮性能と一次エネという限定的な性能で考えていますが、バイオクライマティックデザインという考え方ではもっと多くの環境配慮があり、それらを十分に考えると新しい建築が生まれてくるのではという期待が込められています。

ぜひ今後も皆様が一層の精進をし、埼玉から新しい環境住宅が誕生することを願っております。

(中村勉審査委員長)



## 第8回 埼玉県環境住宅賞の流れ

### 審査委員会

令和3年3月24日、令和3年4月15日

募 集 令和3年7月1日～9月30日

応募作品	47作品
・建築部門	21作品
・アイディア部門	21作品
・学生部門	5作品

### 審査委員会

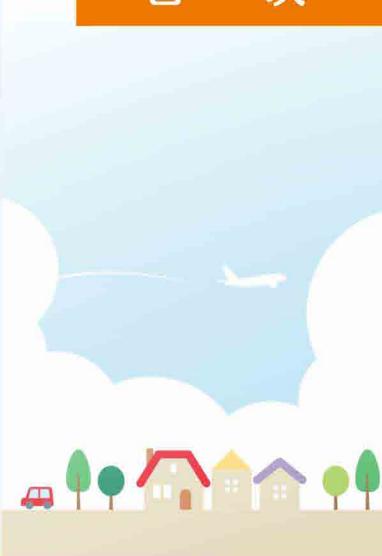
令和3年11月16日(作品審査)

### 受賞作品発表

令和3年12月23日

※今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため表彰式は行いませんでした

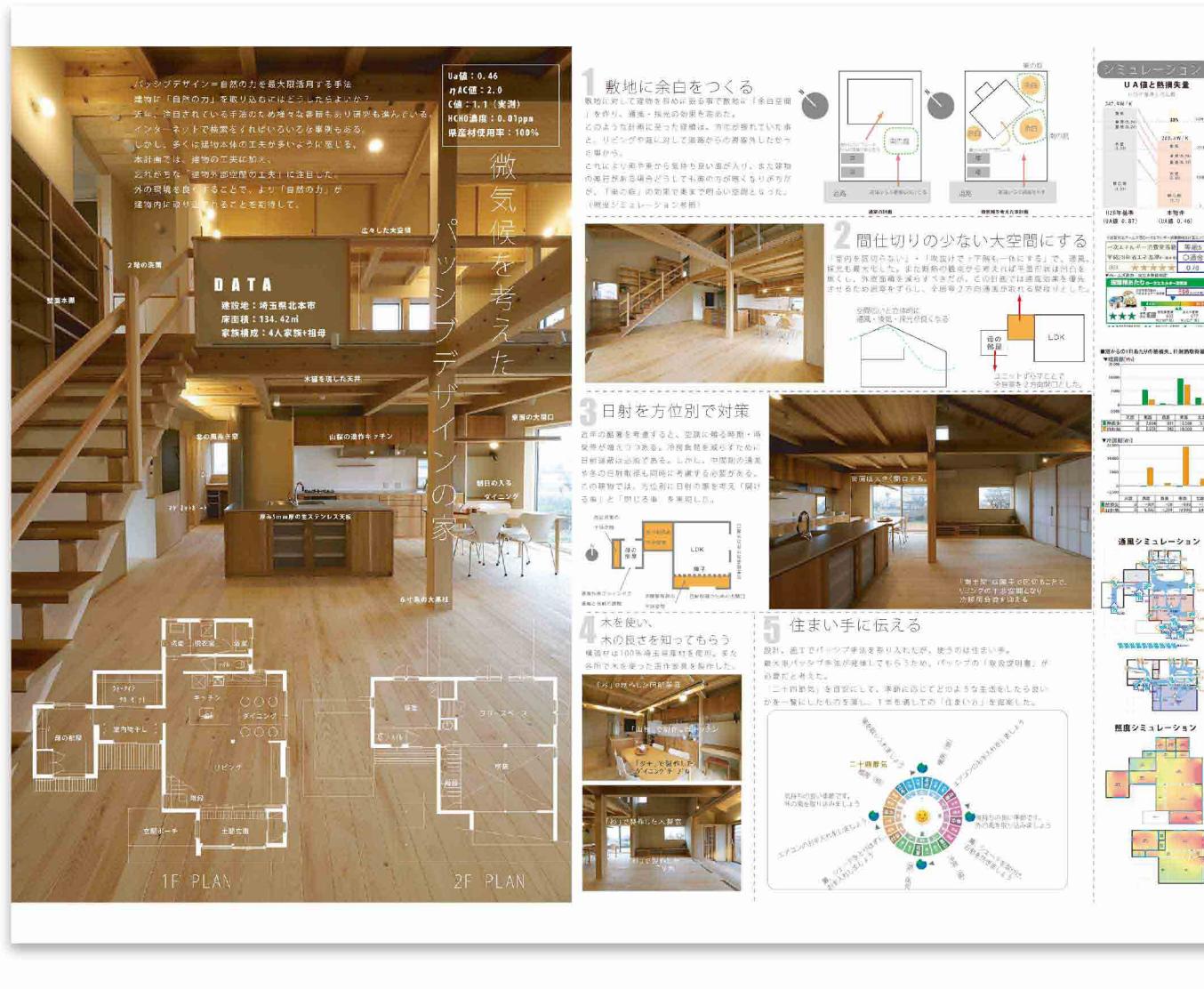
## 目次



審査委員長総評	1p
目次	1p
埼玉県知事賞	2p
優秀賞	3～5p
審査委員長特別賞	6p
協議会会长特別賞	7p
入選	8～10p
奨励賞	11p
応募作品	12～18p

## 埼玉県知事賞（建築部門）

# 微気候を考えたパッシブデザインの家



所 在 地	北本市
構 造・階 数	木造2階
敷 地 面 積	489.70m <sup>2</sup>
延 床 面 積	134.42m <sup>2</sup>
建 築 面 積	103.51m <sup>2</sup>
工 事 費	約3,300万円
居住者構成	15歳未満2人、15歳以上65歳未満2人、 65歳以上1人 合計5人
応募者	株式会社小林建設
	代表取締役 小林 伸吾
設計者	株式会社小林建設一級建築設計事務所
施工者	株式会社小林建設

講評

今回多くの作品を応募いただきました。いずれの作品も素晴らしいのですが、中でも、この作品はパッシブデザインを活用した住まい手にとても優しい住宅だと評価いたしました。興味深かったことは、建物全体を方位に沿って斜めに建てられたことです。それにより、自然の光や風を建物内に最大限に取り入れることが可能となり、結果健康面にも配慮することができ、住まい手の生活の質を上げるものだと思いました。また、緻密なデータを採取されており、省エネ住宅としても評価できました。

さらに、県産材の活用による木材の地産地消や日射遮蔽による熱の管理等、環境に配慮した低炭素な住宅だと言えます。

(講評：秋元委員)

## 優秀賞 (建築部門)

# 緑と暮らす ECO-APARTMENT



所 在 地	東松山市
構 造・階 数	木造2階
敷 地 面 積	543m <sup>2</sup>
延 床 面 積	487.47m <sup>2</sup>
建 築 面 積	293.78m <sup>2</sup>
工 事 費	約10,000万円
応 募 者	株式会社夢・建築工房
	代表取締役 岸野 浩太
設 計 者	株式会社夢・建築工房
施 工 者	株式会社夢・建築工房

講評

集合住宅は投資物件であることが多いため、なかなか高断熱・省エネ化が進まない。その中で本作は、集合住宅で上記にチャレンジ、それだけでも評価が高いが、その上にそれぞれ高い性能を実現し、さらに完成後の検証も行っている。ハードだけでなく、全体の取り組みとして高く評価できる。意匠的にも床に無垢材、外観に木材を多用し、敷地に豊富な植栽を配置していることも好感が持てる。惜しくも最優秀賞にはならなかつたが、甲乙つけがたい内容であり、やはり戸建て住宅のデザインの自由度が優ったとの印象である。ただ、本作は大変重要な例であるので、今後の冬の測定データや入居者の声の公表に期待する。

(講評: 松岡委員)

